

5 - 2 東海地方の微小地震の分布(1988年5月1日～1988年10月31日)

Distribution of Microearthquakes in Tokai District (May 1, 1988 - Oct. 31, 1988)

名古屋大学 理学部

School of Science, Nagoya University

前報¹⁾に引き続いて1988年5月1日より1988年10月31日までの6ヶ月間における東海地方の微小地震活動について報告する。

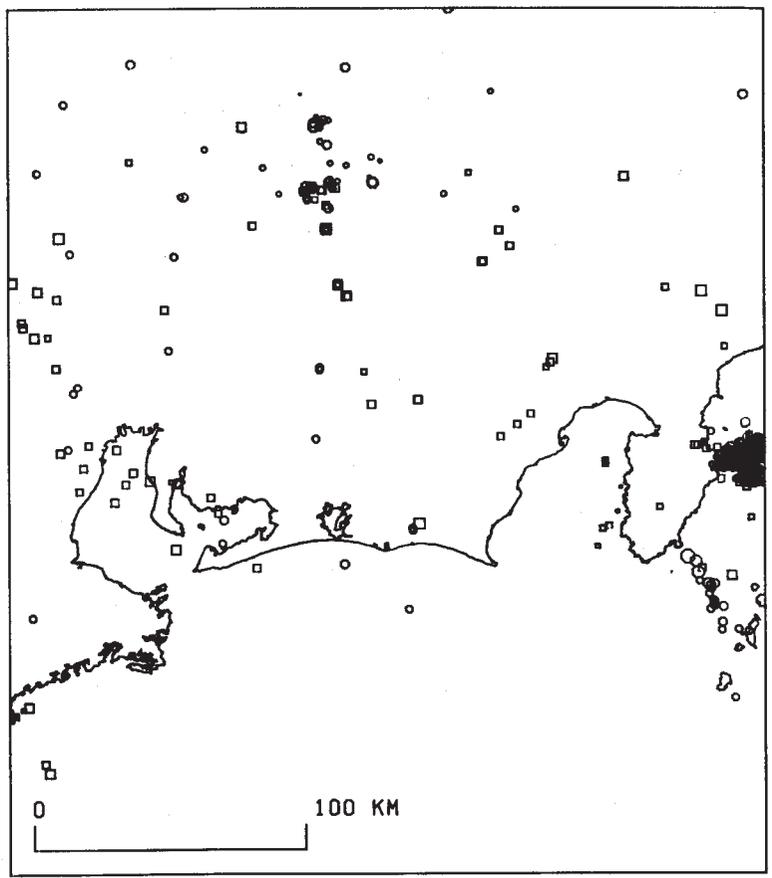
第1図は1988年5月1日より1988年10月31日までの6ヶ月間に名古屋大学理学部の地震テレメータ観測網によって観測された20km以浅に発生している地震の震央を3ヶ月ずつの期間に分けて示したものである。第2図は同じ期間に20kmから80kmの間の深さで発生した地震の震央を示したものである。

以下にその特徴について述べる。

- (1) 伊豆東方沖では1988年2月末の活動以降は静穏な状態が続いていたが、1988年7月26日から6日にかけて7月31日のM5.2を含む活発な活動が見られた。その後は9月末まで低い活動になり以後鎮静化している。
- (2) 長野県西部地震の余震は依然として続いているが、伊豆東方沖での活動が活発な時期には鎮静化していた。伊豆東方沖の活動が静穏化すると共にやや活発になり、この期間では1988年10月1日のM4.3(JMA)の地震が最大であった。
- (3) 名古屋大学理学部高山地震観測所で10月4日19時から10月10日13時までに24個の低周波地震が観測された。初動は不明瞭であるが、個々の地震の波形は良く似ているので震源は同一と思われ、震央は長野県西部地震の余震域らしい。規模は小さく最大のものが10月5日18時21分のM0.8である。
- (4) その他の地域では静岡県西部で5月20日M3.5, 6月1日M3.7, 7月14日M3.4, 9月16日M3.5等の地震があり, 8月22日に岐阜県中央部でM3.0の地震があったが, 概ね静穏であった。

参 考 文 献

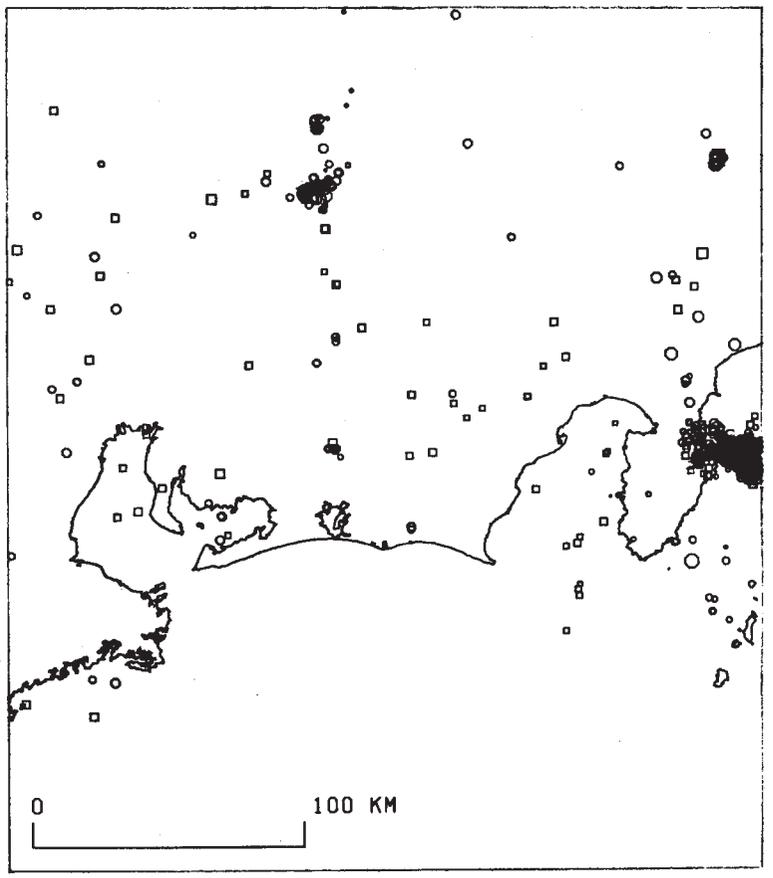
- 1) 名古屋大学理学部：東海地方の微小地震の分布（1987年11月1日～1988年4月30日），連絡会報，40（1988），266 - 268.



N = 1033

DEPTH 0 10 20 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ · ○ ○ ○

1988 5 1 - 1988 7 31



N = 1683

DEPTH 0 10 20 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ · ○ ○ ○

1988 8 1 - 1988 10 31

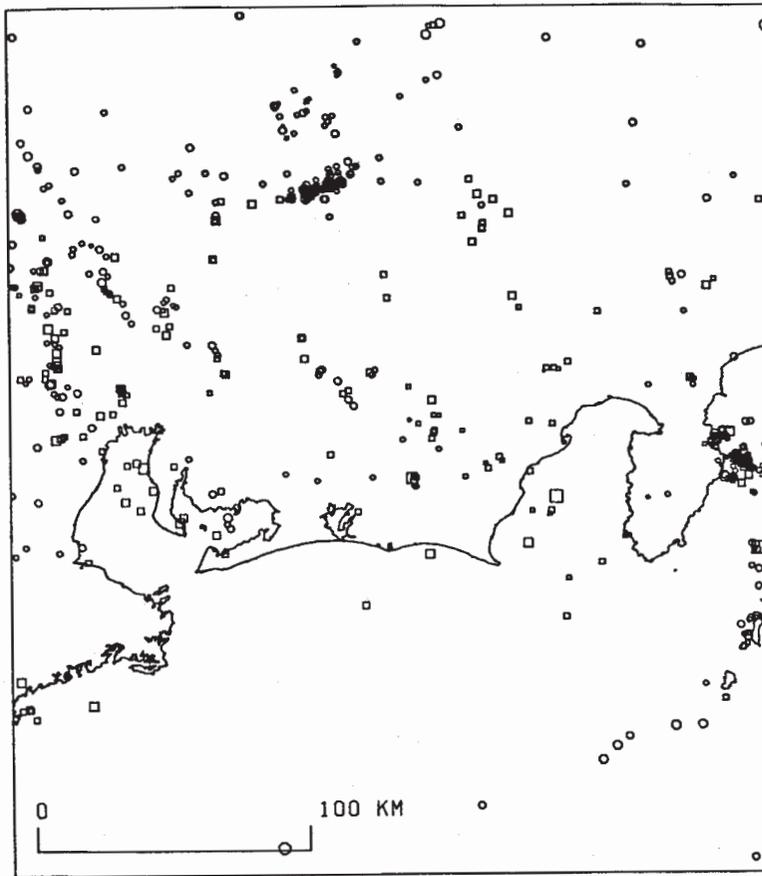
(NAGOYA UNIV)

第1図 微小地震の分布 (1988年5月1日~1988年10月31日) 震源の深さが20km以浅のもの

Fig. 1 Epicenter distribution of earthquakes (May 1, 1988 - October 31, 1988) shallower than 20 km.

[訂正]

会報第36巻5-1「東海地方の微小地震の分布」229ページ～230ページの第1, 2図を下
記の図に訂正します。

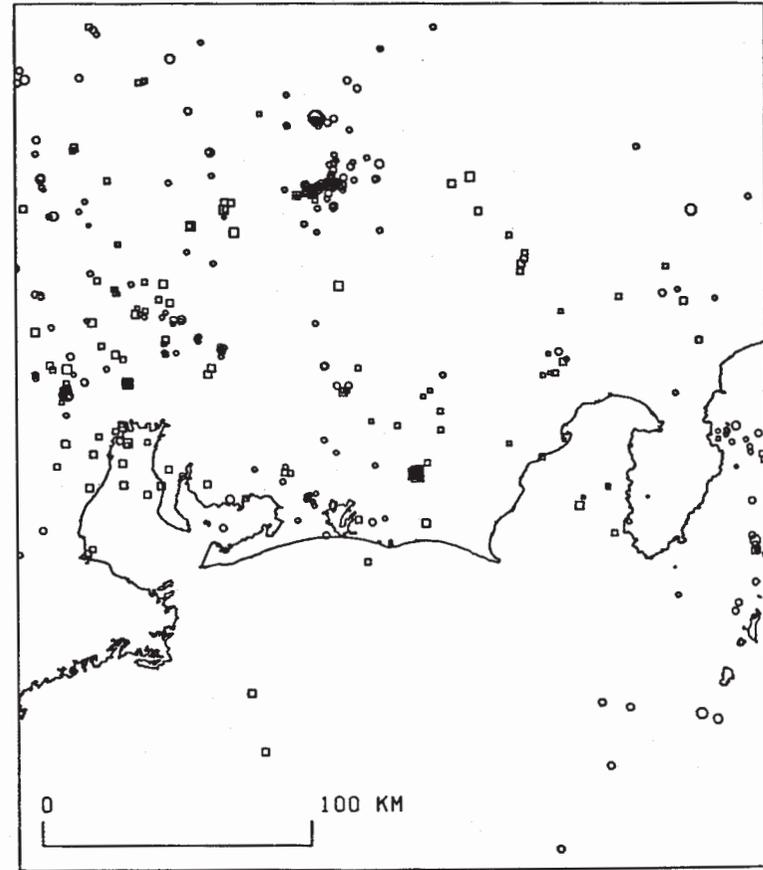


N = 606

DEPTH 0 10 20 KM
○ □

MAG. 1 2 3 4
• ○ ○ ○

1985 11 1 - 1986 1 31



N = 413

DEPTH 0 10 20 KM
○ □

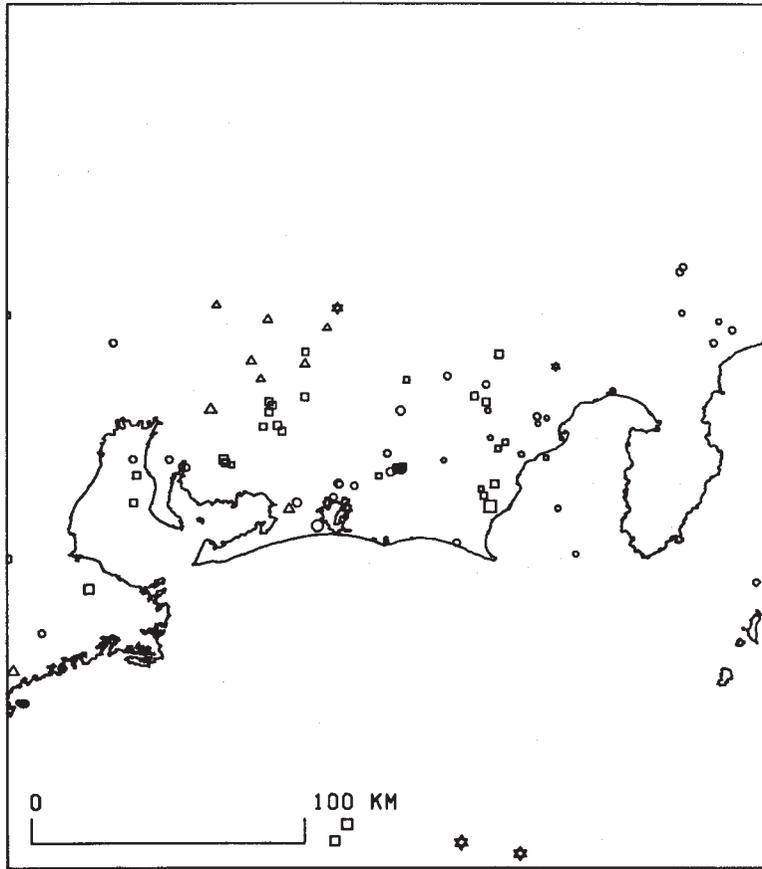
MAG. 1 2 3 4
• ○ ○ ○

1986 2 1 - 1986 4 30

(NAGOYA UNIV)

第1図

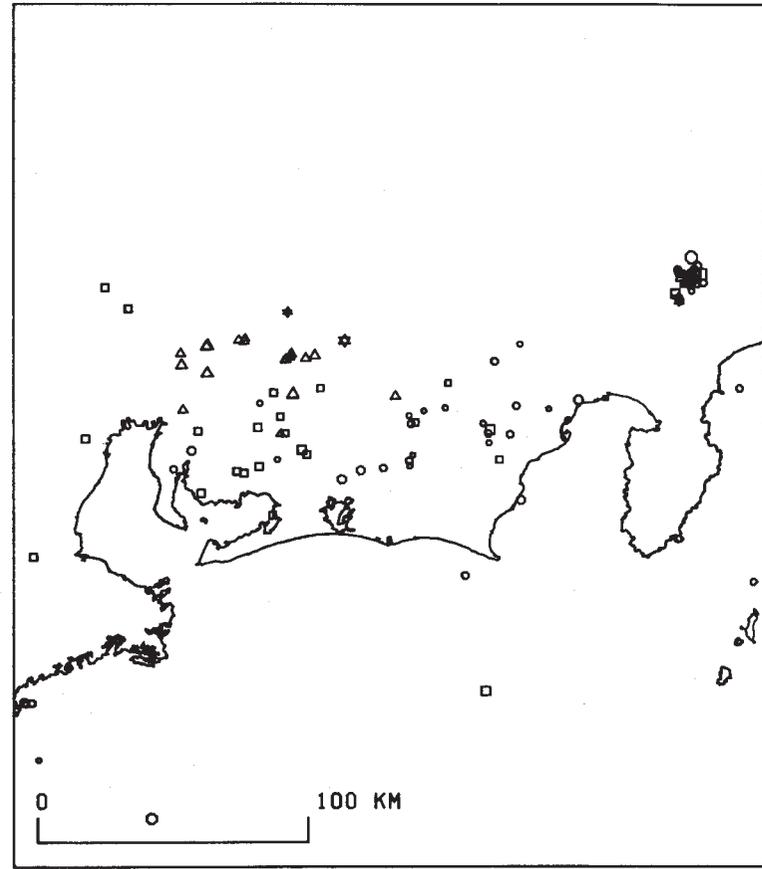
Fig. 1



N = 90

DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ · ○ ○ ○

1988 5 1 - 1988 7 31



N = 107

DEPTH 20 30 40 50 80 KM MAG. 1 2 3 4
 ○ □ △ ☆ · ○ ○ ○

1988 8 1 - 1988 10 31

(NAGAYA INTV)

第2図

Fig. 2